

# なんケア通信

第44回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和6年10月4日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：42名(地域包括支援センター3名、介護事業所関係者14名、  
医療機関関係者24名、福祉用具1名)

## 演題

### 『終末期患者への退院支援とやすらかに在宅で看取るまでの過程 ～家族の思いをたどる～』

御野場病院 地域包括支援病棟看護師 工藤 爽・関 美奈子  
御野場病院 外来看護師 久須美 詩織

食事摂取が進まない状況で点滴を終了して自宅へ退院し、やすらかに在宅で看取るまでの2事例を、入院中の過程、退院支援の進め方、退院後の在宅も取りまでの過程をお話しました。

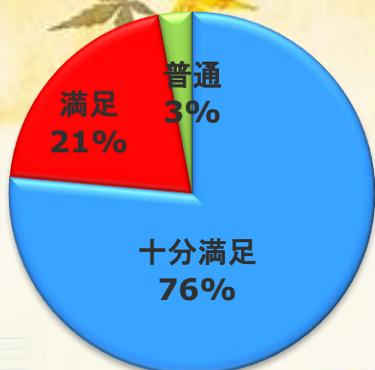
家族へのインタビュー動画では、在宅での療養や看取りを選択した理由や、点滴を終了する葛藤や決断、自宅療養に向けて多職種が連携して支援してくれたことへの感謝、死後に感じたことなど、それぞれの思いを語っていただきました。

今回のテーマを通して、我々医療スタッフは患者・家族と日頃からコミュニケーションを大切にし、希望や思いに寄り添い、多職種でサポートしてよりよい支援ができるようにしていきたいと思いました。

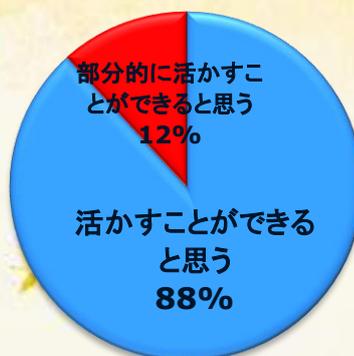
## アンケート結果

回収率：80.9%(アンケート配布：42名、回収：34名)

1.なんケアの会に参加していかがでしたか？



2.今後、地域での活動に活かすことができそうですか？



## 会場の様子



## 皆様からのご意見・ご感想

自宅で看取るという決断は大変なことだと思いますが、本人も家族も幸せだったと思います。最後のインタビューがグリーフケアにつながっていると思いました。とても良い、素晴らしい研修でした。

(介護支援事業所関係者)

とても勉強になりました。ご家族の思いを丁寧に聞き出せているところがすごいと思いました。業務の傍ら、ここまで準備されたことに感銘を受けました。

(医療機関関係者)

関係者(専門職)の連携で、家族の不安が解消することができたことや、選択することができたこと、信頼関係があったことと思いました。病院の医師も入院でも自宅でも十分に説明していること、家族は安心されていたことと思いました。

(介護支援事業所関係者)

2つのケースとも、元気な時から関係性が良好であり、ご本人の意向と家族の意向が同じだったことを感じた。いろんな思いがある。グリーフケアが大切、家族を含めた多職種連携の大切さを感じた。実際のインタビューを聞いたことがよかった。

(地域包括支援センター)



次回開催のお知らせ

開催日時：令和6年12月6日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」